

【分野名：数学、物理学、地球科学】

大 学 名	東京大学
拠点のプログラム名称	科学技術への数学新展開拠点
中核となる専攻等名	大学院数理科学研究科数理科学専攻
拠点リーダー氏名	楠岡成雄
<p>《拠点形成の概要》</p> <p>本プログラムでは、数学及び数学応用の研究及び教育を長期的な視点に立って自由な雰囲気でおこなえる国際的研究教育拠点を形成する。ここでは、数理科学研究科における数学研究のさらなる活性化をはかり、数学の社会への応用の可能性を探ると共に、応用の視点からの新しい数学を創出をしていく。</p> <p>研究拠点は数学応用インターフェイス基地（以下基地と呼ぶ）及び数学研究のための3研究部門（構造、非線形、大域）より構成される。基地には、戦略本部を置き、COEプロジェクト全体の統括、企画・立案を行う。また、戦略本部の下に、日本ではまだ数理科学として十分定着していない分野の研究班をいくつか作る。3研究部門は数学研究の活性化をはかると同時に、研究班への研究支援や応用研究の提案を行う。研究班・研究部門では、学外の人にも開かれたセミナーの定期的開催・国際共同研究を行っていく。また、毎年、大規模な国際研究集会、国内外の研究者による集中講義を中心とした短期間のスクールを開催する。</p> <p>本プロジェクトでは若手研究者養成にも力点を置いている。研究活動の中心であるセミナー、研究者向けのスクールをポスドク・大学院生の専門教育のためにも利用する。また、学部・大学院教育において事例研究型の演習の導入を目指す。応用研究の過程を仮想体験させるような演習を応用研究の事例を積み上げていくことで5年間かけて作り上げる。また、社会人・一般研究者・学校教員などを対象とした啓蒙的な公開セミナーを開催し、数学研究・数学教育への社会の理解を深めるように務める。</p>	